

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災活動後、帰署した際、隊員が熱中症になった事例
3. 体験した事例の中心的要素	夏季の建物火災で水分を適切に補給できず消火活動を継続したため。
4. 体験した事例の原因・理由	夏季時の消火活動時における水分補給の必要性に対する認識不足

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成24年8月23日 午前9時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：火災現場(建物火災)
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他：消火活動後、軽度な熱中症を起こした。
7. 事例体験時の活動	火災 その他：帰署後、点検整備終了時、[]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：撤収後、現場を引上げた後、発症
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

部隊間で隊員の体調管理を把握する事に努め、体調不良等を感じた時は速やかに報告するよう徹底を図っている。

○装備・資機材の対策について

熱中症対策として、夏季に限らず警防活動時には水分補給ができるよう常時、車両に飲料水を積載している。また、訓練時においても休息時には水分補給をするよう心がけている。

○活動環境の対策について

当市、安全管理マニュアルを基に警防活動後(訓練後含む)の体調管理に万全を期している。

○指揮・情報伝達の対策について

署、待機室設置のベッドに座りこむ隊員の様子

